

わが国の肝細胞癌(肝癌)治療は、肝移植例が少ないにもかかわらず、世界一の生命予後を誇っている。欧米からは、リードタイム・バイアス(ゼロタイム・シフト)の可能性などを理由に、なかなか認められていないのが現実ではあるが、最近では海外での理解者も増えてきているようである。

まず、サーベイランスシステムである。「小さく見つけて根治治療を行う」方針で成果を上げてきている。ただ、わが国の皆保険制度に頼っている面も大きく、検査が過剰なきらいはある。ひところは、「肝硬変では3カ月ごとの腹部エコー」が当然視されたが、この根拠となるデータは実は強くない。「6カ月ごとのエコーと生命予後は異なるのか」という問いへの答えは十分得られていない。

肝癌の根治治療においては、わが国の外科と内科がせめぎ合って、いや、手を携えて、治療法を進歩させてきた。東京大学消化器内科では、ラジオ波焼灼術(RFA)治療を施した初発肝癌患者の5年生存率は62%を超えている。わが国では年間肝癌死亡数は2005年にピークを迎え、その後は緩やかに減少傾向を示しているが、その最大の理由は肝癌治療法の進歩である。そして、ウイルス肝炎への抗ウイルス治療の進歩が肝癌発生数を減らし、肝癌撲滅へと向かっている。

しかし、肝癌診療が完成に近づいたかといえば、まだ道半ばである。肝癌死ゼロ、そして最終的には肝癌発生ゼロを目指して、肝癌診療を進化させていかななくてはならない。本特集では、最新の肝癌診療ガイドラインについてお忙しい先生方にご執筆いただいた。この場を借りて、篤く御礼申し上げたい。

(小池 和彦)

臨牀 消化器内科® Vol. 33 No. 6

©2018年5月20日発行

定価(本体2,750円+税)

年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail gastro@nmckk.co.jp

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 三報社印刷株式会社

・Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2018. Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所／日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 03-5226-2791